

5. 招待講演・シンポジウム

(学術集会・大会・公的な研修会のみ記載，一般・民間企業主催は除く)

1. 岡田洋平
(講演) パーキンソン病の標準的な理学療法プログラム
第 17 回パーキンソン病・運動障害疾患 कांग्रेस 2023 年 5 月 @大阪
パーキンソン病患者に対する標準的な理学療法プログラム作成の基本方針と現状について発表した。
2. 尾川達也
(講演) 理学療法をポジティブに ～ネクストフロンティア～ 事例報告 -
理学療法ガイドラインの活用方法-
第 58 回日本理学療法学術研修大会 2023 年 5 月 @WEB
Evidence Based Medicine に基づいてガイドラインを適切に使うために，Shared Decision Making の概要を説明し，事例を通して具体的な実践方法を提案した。
3. 田中陽一
(シンポジウム) 疼痛律動性の off を狙え！ー活動促進のヒントー
第 27 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2023 年 6 月 @名古屋
ペインリハビリテーションの障壁として「低活動」を取り上げ，疼痛律動性の視点からのペインリハビリテーションの視点を提案した。
4. 大住倫弘
(リフレッシャーコース講演) 慢性疼痛の病態理解に必要な脳の神経生理学
第 27 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2023 年 6 月 @名古屋
慢性疼痛の病態を理解するのに必要な脳の神経生理学を概説するとともに，それぞれの病態メカニズムに合わせたリハビリテーションの提案をした。
5. 藤井 廉
(若手研究者講演) 運動恐怖を有する腰痛有訴者の運動学的分析
第 27 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2023 年 6 月 @名古屋
腰痛を有する就労者を対象とした作業関連動作の運動学的研究の成果を紹介し，就労環境における腰痛の病態評価や介入戦略を提案した。
6. 尾川達也
(講演) ペインリハビリテーションに活かす共有意思決定ーShared Decision Makingー
第 27 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2023 年 6 月 @名古屋
Shared Decision Making の概要を説明した後，ペインリハビリテーションの領域における活用方法について提案した。

8. 古賀優之
(講演) 中枢性疼痛のメカニズムと評価
第 27 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2023 年 6 月@名古屋
中枢性疼痛が発生する要因について, 上行性伝導路と下行性抑制経路の働きを中心に解説するとともに, 臨床場面における具体的な評価手法を提案した.
9. 佐藤剛介
(講演) 脊髄障害性疼痛の病態とリハビリテーション
第 27 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2023 年 6 月@名古屋
脊髄障害性疼痛の病態を解説し, 病態に応じたリハビリテーションを紹介した.
10. 林田一輝 西祐樹 大澤一輝 森岡周
(若手研究者講演) 歩行中の感覚運動不一致研究
—偶然発見された身体軽量感—
第 7 回 基礎理学療法学 若手研究者ネットワークシンポジウム.
2023 年 8 月@仙台
とある実験中に偶然発見された身体軽量感について, そのメカニズムの仮説を紹介し, リハビリテーション応用の可能性を提案した.
11. 岡田洋平
(教育講演) 歩行を実現する神経メカニズム
第 21 回日本神経理学療学会学術大会 2023 年 9 月@神奈川
ヒトの二足歩行を実現するための基本的な神経メカニズムについて解説した.
12. 岡田洋平
(シンポジウム) 長期理学療法的重要性～エビデンスと実践の視点から～
第 6 回パーキンソン病治療シンポジウム 2023 年 9 月@東京
パーキンソン病における疾患早期からの長期理学療法の効果に関するエビデンスとそれを実践するための考え方について提案した.
13. 植田耕造
(教育講演) 姿勢バランスの評価の種類と特徴
第 21 回日本神経理学療学会学術大会 2023 年 9 月@神奈川
Berg balance scale や Mini-Evaluation Systems Test など臨床現場で使用する姿勢バランスの評価の種類と特徴, およびその評価結果の解釈について解説した.
14. 信迫悟志
(教育講演) 高次脳機能を可能にする神経メカニズム
第 21 回日本神経理学療学会学術大会 2023 年 9 月@神奈川
高次脳機能(認知機能)に関与する大脳皮質連合野と連合線維によって構成される神経ネットワークとその機能, および高次脳機能障害との関連を解説した.

16. 信迫悟志

(シンポジウム) 発達性協調運動障害を有する児に対する課題指向型アプローチに重要な要素

第 21 回日本神経理学療法学会学術大会 2023 年 9 月 @ 神奈川

発達性協調運動障害を有する児に対する介入として、最もエビデンスレベル・推奨度の高い課題指向型アプローチについて解説した。

17. 植田耕造

(講演) 脳卒中後の姿勢制御障害の評価とアプローチ

令和 5 年度道北支部中枢部門研修会 2023 年 9 月 @ Web

脳卒中後の姿勢制御障害に関して、静止立位、随意移動、反応的姿勢制御に分けて、評価とアプローチを解説した。

18. 藤井 廉

(講演) 腰痛有訴者が抱く運動恐怖を運動学的視点から分析する

第 11 回 日本運動器理学療法学会学術大会 2023 年 10 月 @ 福岡

体幹の運動異常や運動恐怖の評価手法を具体的に紹介するとともに、実際の腰痛症例を提示し、評価結果の解釈や介入による経時的変化を観察する上でのポイントを提案した。

19. 信迫悟志

(シンポジウム) 疑問を解決するための研究—発達性協調運動障害 DCD を通じて—

第 10 回日本小児理学療法学会学術大会 2023 年 10 月 @ 小樽

自身の発達性協調運動障害に関する研究紹介と将来の展望について情報提供した。

20. 信迫悟志

(シンポジウム) 発達性協調運動障害における予防理学療法

第 10 回日本予防理学療法学会学術大会 2023 年 10 月 @ 函館

発達性協調運動障害 (DCD) の病態メカニズムや精神心理的問題について解説し、予防的な観点からどのように DCD 児に関わるべきかについて情報提供した。

21. 植田耕造

(講演) 脳卒中後の立位・歩行制御障害に対する理学療法の最近のトピックス

京都府理学療法士会主催 理学療法士講習会 2023 年 10 月 @ Web

脳卒中後の立位・歩行制御障害に対する最近のトピックスを、主に反応的姿勢制御と可変的な高強度の歩行練習に関して解説した。

23. 大住倫弘, 井川祐樹

(シンポジウム) 臨床評価・予後予測に基づく脳卒中後疼痛のリハビリテーション

第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2023年11月@宮崎
脳卒中後疼痛のリハビリテーション予後を予測するような評価・分析手続きを説明したのち、テーラーメイドのリハビリテーションを実施することの重要性を提案した。

24. 田中智哉

(シンポジウム) 痛みの病態に基づいた理学療法マネジメント 疼痛患者の患者教育

第33回京都府理学療法学術大会 2023年11月@京都
基本的な痛みの病態について説明した後に、病態に応じた患者教育を行う重要性を具体的な事例紹介を通じて提案した。

25. 田中陽一

(シンポジウム) 疼痛律動性を踏まえた作業療法

第16回日本運動器疼痛学会 2023年11月@富山
ペインリハビリテーションを実践するうえでの方向性や課題を提示した後に、作業療法士としての視点から疼痛律動性を組み込んだリハビリテーションについて説明した。

26. 大住倫弘

(シンポジウム) 脳・心・身体からみた難治性疼痛のリハビリテーション

第28回日本基礎理学療法学会学術大会 2023年12月@広島
難治性疼痛における脳・心・身体における問題を包括的に理解することの重要性を説明し、これらの疼痛リハビリテーションのありかたを提案した。

27. 西祐樹

(シンポジウム) 運動恐怖による運動制御の変調を捉える

第27回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2023年6月@名古屋
ペインリハビリテーションの障壁として「運動障害」を取り上げ、疼痛による運動障害の病態や評価を概説した。

28. 西祐樹

(シンポジウム) 姿勢制御とデータサイエンス

第21回日本神経理学療法学会学術大会 2023年9月@大阪
姿勢制御の病態を把握する上でデータサイエンスを応用する有用性を概説した。

29. 西祐樹

(シンポジウム) 運動制御から捉える痛みと治療戦略

第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2023年11月@宮崎
疼痛による運動制御障害の病態と介入の指針について立位制御や歩行制御を中心に概説した。

30. 尾川達也

(シンポジウム) 進行性神経疾患と共に歩む目標設定の実際

第6回日本神経理学療法学会 SIGs 参加型フォーラム 2024. 2024年3月3日@東京

進行性神経疾患患者の Narrative な知見に基づいた目標設定方法について提案した。

26. 山崎雄一郎

(講演) 脳卒中後に運動失調を呈する症例への評価と介入

令和5年度 第1回 埼玉県西部ブロック川越エリア研修会 2023年10月

25日 @WEB

脳卒中後に運動失調を呈した症例に対する理学療法評価や予後予測について実際の症例への経過をふまえて概説した。

31. 林田一輝

(講演) 運動学習と身体認知

和歌山県理学療法士協会 令和5年度士会主催研修会. 3月3日@web

運動学習と身体認知の関係性について解説した。

32. 成田雅

(講演) パーキンソン病の標準的な理学療法プログラム

第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres 2023年7月@大阪

パーキンソン病患者に対するベッドモビリティの標準的な理学療法プログラムについて説明した。

33. 成田雅

(講演) パーキンソン病患者のベッドモビリティ研究：関連要因と24時間モニタリング評価

パーキンソン病トータルマネジメント研究会ー運動障害とリハビリテーション 2023年12月@東京

パーキンソン病患者のベッドモビリティ障害に関しての関連する要因とウェアラブルデバイスを用いた24時間評価について説明した。

34. 岡田洋平

(講演) パーキンソン病の標準的理学療法プログラム

第6回PD遠隔リハビリテーション研究会 2024年2月@オンライン

パーキンソン病の標準的な理学療法プログラム作成の進行状況と今後について発表した。

36. 岡田洋平

(総括討論) 進行性神経疾患の理学療法を通して考える神経理学療法の前進と変革

日本神経理学療法学会 第6回 SIGs 参加型フォーラム 2024年3月@東京
シンポジウム2「進行性神経疾患における神経理学療法の展開」についての4名の講師の講演内容及び議論の内容を総括し、進行性神経疾患の理学療法の特性と非進行性神経疾患の理学療法の共通点などを整理した上で、今後進行性疾患の理学療法をどのように展開していくのかについて、フロアを交えて議論した。

37. 佐藤剛介

(シンポジウム) 臨床データから脊髄損傷リハビリテーションの基点を探る
第21回日本神経理学療法学会学術大会 2023年9月@横浜
急性期病院における脊髄損傷リハビリテーションの現状について、臨床データを提示し報告した。

38. 蓮井成仁

(シンポジウム) 歩行条件に基づく障害構造の理解と臨床意思決定過程—脳卒中者を例に—

第21回日本神経理学療法学会学術大会, 2023年9月@横浜

39. 森岡 周

(特別講演) 身体性の概念とリハビリテーション-身体的自己と物語的自己-
第14回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 2023年4月@北九州市

身体性の概念について説明し、ショーンギャラガーが提唱した **minimal self** (身体的自己) と **narrative self** (物語的自己) の相互作用がリハビリテーション過程でおこることを概説した。

40. 森岡 周

(シンポジウム) 2025, 2040 へ向けた課題と展望「理学療法研究とエビデンス」

第58回日本理学療法学術研究大会, 2023年5月@WEB

神経理学療法領域から理学療法研究とエビデンスの動向について触れ、今後2040年に向けたロードマップを示した。

41. 森岡 周

(シンポジウム) 身体性から考える身体拡張の治療応用原理

第21回日本神経理学療法学会学術大会, 2023年9月@横浜

sense of agency (行為主体感) のメカニズムについて概説し、VRなどの拡張身体への応用の留意点について説明した。

43. 森岡 周

(講演) 身体性システム科学とリハビリテーション

(公社) 埼玉県理学療法士会令和 5 年度教育局認定・専門研修部第 3 回研修会. 2023 年 10 月@大宮

身体性を行為主体感と身体所有感の観点から説明し、リハビリテーション対象疾患におけるそれらの変容、ならびにアプローチについて説明した。

44. 森岡 周

(講演) やる気スイッチはどこにあるのか～主体的に生きるには～

神奈川県回復期リハビリテーション病棟協会連絡協議会. 2023 年 10 月@横浜

動機付け、主体性のメカニズムについて説明し、人間が主体的に生きるための要因について解説した。

45. 森岡 周

(シンポジウム) 2024 年度医療・介護・福祉のトリプル診療報酬改定に向けての課題と今後の取り組み

日本理学療法管理学会, 日本精神・心理領域理学療法研究会合同学術大会 2023. 2023 年 11 月@川越市

神経理学療法領域から、診療報酬改訂に向けて、今実行しようとしていることについて紹介した。

46. 森岡 周

(シンポジウム) 痛みとモーターコントロール・リハビリテーション手段も含めて・

日本整形内科学研究会第 6 回学術集会. 2023 年 11 月@WEB

運動恐怖などの心理要因や感覚障害が運動制御 (kinematics, kinetics) に及ぼす影響について解説した。

47. 森岡 周

(講演) 筋骨格系疼痛患者における痛覚変調性疼痛の包括的理解・中枢性感作症候群および QOL との関連も含めて・

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業) 「種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割解明と QOL 向上, 社会啓発を目指した領域統合多施設共同疫学研究」年次報告会. 2023 年 12 月@東京

中枢性感作症候群と身体性の喪失や感覚減衰の破綻の関係から痛覚変調性疼痛のメカニズムの仮説モデルを紹介した。

48. 森岡 周

(講演) Modern Physical Medicine and Rehabilitation.

(公社) 兵庫県理学療法士会研修部セミナー. 2024 年 1 月@神戸

テクノロジーを用いたリハビリテーションとナラティブアプローチの創発について、自己と身体性の科学・哲学から解説し、現代のリハビリテーション医学に関して定義づけをした。

49. 森岡 周

(講演) 私らしさの復権

財団法人 訪問リハビリテーション管理者研修会. 2024 年 2 月@WEB

自己の哲学・科学を解説し、自己の生成モデル・メカニズムの観点から、リハビリテーションモデルを提言した。

50. 森岡 周

(シンポジウム) Why Narrative Embodiment in Rehabilitation

CREST-ANR NARRABODY 1st Meeting. 2024 年 3 月@リヨン (フランス)

日仏共同研究に向けて、ナラティブエンボディメントとは何かをリハビリテーションの視点から解説した。

51. 森岡 周

(特別講演) 未来への舵取り-2040 年の理学療法-

第 37 回高知県理学療法学会. 2024 年 3 月@高知

AI を用いたプレシジョンメディシンや、理学療法士のヘルステックへの関わり、さらには n-of-1 の個別性のリハビリテーションの重要性を解説した。